

1 学校教育目標

○進んで考える子 ○仲よく助け合う子 ○心と体をきたえる子 ○最後までやりぬく子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

| | |
|---------|---|
| ○学校像 | 生きる力を身に付けさせる学校 ○学ぶ楽しさや喜びを実感させる学校 ○豊かな人間性を育む学校 ○健やかな心身を育む学校 ○家庭・地域から信頼と協力を得られる学校 |
| ○児童・生徒像 | 知・徳・体の調和のとれた児童 ○主体的に学び、自分の考えをもち、表現できる児童 ○豊かな心をもち、互いを認め合い、高め合う人権感覚の備わった児童 ○心身ともに健康でたくましい児童 ○何事にも意欲的に挑戦し、粘り強く努力する児童 |
| ○教師像 | 職務に全力で取り組む教師 ○専門職としてすぐれた指導力をもち、意欲的に研修に励む教師 ○児童に最も近い大人として手本となれる社会人 ○教育課題に適切に対応できる教師 |

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

＜学校の現状＞

①児童について

全体的に落ち着いた生活を送っています。素直で明るく元気な児童が多く良い雰囲気の内です。登校班や縦割り班活動等を通じて、他者を思いやる心も育ってきていますが、高学年ではSNSを介した同級生内における誹謗中傷等の問題も発生しました。思いやりの心の醸成や社会性の更なる向上も求められるところです。学習面では、基礎的・基本的な学力の確かな定着、思考力や読み取る力、学習意欲の向上に向けた授業改善も継続していきます。

②教師について

若い教員構成であり意欲や実行力を持ちながらも、新しいことへの具現化に難点もありました。若い力を結集させて、西二小の子どもたちのために積極的な試みに取り組んでいきます。

③保護者・地域について

登下校の見守り、学校の教育活動への理解・協力など全般的に良好な状況です。担任への深い理解と支援をくださる保護者の方も多かったです。その期待を裏切らない姿勢で職員一同、職務遂行に努めます

＜前年度の成果と課題＞

①学力向上

区学力調査における通過率が各学年で低下しました。12月の再テストでは、通過率が2科とも80%を上回れました。しかし、これは繰り返しの練習の上での成果のため、身に付いた本来の実力とは断言し難いものです。今後も基礎的・基本的学習内容の定着に向けた、個の実態に応じた指導の展開を図っていきます。

②豊かな心の育成

「学校教育に関する保護者アンケート」から豊かな心の育成について、「心の教育、道徳教育の実施(91.3%)」「学校のきまりや友達関係に対する指導(90.5%)」「社会のきまりや善悪についての指導(93%)」などA評価を高い比率で受けることができました。しかし、思いやりの欠如が招く生活指導上の問題も発生しており、道徳指導に限らず全教育活動を通して心の育成を継続していくことが大切です。

③体力の向上

平成29年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の総合結果は、男子で平均を上回った学年が三つ、女子で二つでした。その特徴として男女ともに共通したことでは、持久力(心と体の耐性)の低さです。運動嫌いの解消を目的として設定している日常の活動、朝マラソンや季節ごとのスポーツへの取り組み、西二ギネスなど一定量の成果を上げてはいると考えますが、自らを鍛えようとする自主的・意欲的な自己の向上への姿勢が全般的に低いのが今後の課題です。

4 重点的な取組事項

| 番号 | 内容 | 実施期間 | | | | |
|----|------------------|------|----|----|----|----|
| | | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 |
| 1 | 基礎的・基本的な学力の定着、向上 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 豊かな心の育成 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 体力の向上 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

5 平成30年度の重点目標

| | | | |
|--|--|--|--------|
| 重点的な取組事項－1 | | 基礎的・基本的な学力の定着、向上 | |
| A 今年度の成果目標 | | 平成30年度区学力調査 目標通過率 | |
| 国語・算数を中心に学習内容を定着させ、理解度を向上させる。 | | 国語・算数 区内目標値 | |
| B 前年度の取組み内容 | | | |
| 項目 | | 具体的な方策 | |
| 西二タイム（個別指導）の充実 | | ①2月に実施する区学力調査から作成する個人カルテに基づく指導。 ②系統性が明確な算数を20時間、国語を10時間で実施。 ③専科教員も配置し、複数教員での指導。 | |
| 放課後等の補習学習 | | ①区学力調査の目標値に達しない児童を対象として実施する。 ②課題の多い学級に専科教員を配置し複数の教員での指導。 ③低学年を中心に保護者、地域からのサポート体制の構築。 | |
| 家庭学習の定着化 | | 低学年30分、中学年40分、高学年50分の学習時間を設定し取り組ませる。中学において標準とされる学年プラス1時間の家庭学習の定着につなげる。 | |
| C 前年度の成果と課題 | | | |
| <p><成果></p> <p>4月の区学力調査においてその通過率が各学年とも前年を下回る結果となりました。そのことを踏まえ、基礎的事項の理解定着と課題解決への力を育む、個に応じた指導（補充体制の確立）に取り組みました。教職員の取り組みと児童の頑張りによって、基礎的事項の全体の理解度や学習成果がもたらす成就感も少しは高まった傾向にあるように思われます。補充体制の充実と並行して、児童が学びの喜びを実感できる日常の学習活動の向上のために、教職員の研修体制の改善にも取り組みました。</p> <p><課題></p> <p>日常の授業（学習活動）と補充体制の確立で、児童の学習成果の二極化が見え始めています。多くの理解済みの児童群と少数の定着に向けてかなり困難のある児童群の境が広がってまいります。</p> <p>児童の全体像としては、校内におけるプログラム化された学習活動を受け入れる姿勢から、自主的な学習活動に取り組む家庭学習などには、まだ不十分な面が多々見られます。家庭学習の定着化は、学力向上の面に留まらず主体的な行動判断と実践力を培うものですが、児童全般に未だ受動的な姿勢から脱却できない状況が強くあります。また、学習ボランティア等の地域からの人材確保も難しい現状があります。</p> | | | |
| D 今年度の目標実現に向けた取組み | | | |
| 項目 | | 達成基準 | 具体的な方策 |
| 別紙 「平成30年度 学力向上アクションプラン」参照 | | | |
| | | | |
| | | | |

| | | |
|----------------------|---|---|
| 重点的な取組事項－２ | | 豊かな心の育成 |
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 |
| 思いやりのある優しい子の育成 | | |
| B 目標実現に向けた取組み | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 |
| 心の教育の充実 | ①いじめ防止（人権尊重）に関する年３回の授業の実施。 ②保育園との交流の充実 | ①いじめ防止強化月間（６月、１１月、２月）に授業を実施する。 ②１年：学習体験、３年：保育園訪問、５年：給食体験・交流会 |
| 学校生活におけるきまりの定着 | きまりに関わる取り組みを、児童の８５％以上が実践する。 | 週目標の定量化を図ると同時に、毎日振り返りを行い、主体的にきまりを守ろうとする児童を育成する。 |
| 学級活動の充実 | 児童の自発的・自治的活動を１２時間以上確保する。 | ①話し合い活動に基づき、PDC（A）のサイクルにのっとった活動を行う。 ②OJTに学級活動を取り上げ、教員の指導力を高める。 |
| 縦割り班活動 | 縦割り班活動に対する、児童のＡＢ評価を８０％以上にする。 | ①なかよし班活動を年間８回実施する。 ②なかよし班で活動する全校遠足を実施する。 |
| ボランティアマインドの醸成 | | ①オリンピック・パラリンピック教育と関連させ体験会や講演会を通して、人権感覚を培い養う。 ②道徳授業の充実を図る。 |

| | | |
|--------------------------------|--------------------------|--|
| 重点的な取組事項－３ | | 体力の向上 |
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 |
| 運動することが好きな子を増やす。 | | 運動遊びが楽しいとする子を、８５％にする。 |
| B 目標実現に向けた取組み | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 |
| 日常的な体育的活動の充実、工夫・改善 | １年間継続して体育的活動に取り組む。 | スポーツ集会 金曜日８時１５分から２０分間、全校児童一斉にスポーツに取り組む。 西二ギネス 年間８回取り組む。活動方法等の改善を加えながら自己向上への意欲付けを図る。 |
| 日常的な運動遊びの奨励 | 外遊びが楽しいと感じる子を、９０％にする。 | 学級担任、専科教員もコミュニケーションを育みながら外遊び活動に参加する。 |
| 季節の体育的活動の充実、工夫・改善と、自らを鍛える意識の育成 | 具体の活動での児童の肯定的な評価を７５％にする。 | ①長縄跳び・短縄跳びの取り組みを、１１月・１月に１ヶ月取り組む。記録に挑戦するなど自己の向上に対する意欲付けを図る。 ②持久走記録会を中心としてマラソン旬間に取り組む。体育科の学習と連携させ、自己の記録の向上を目指す視点を取り入れる。 |